

2016 年度研究助成 研究成果報告書（HP掲載用）

研究課題名：日韓台中における公衆栄養学教育・研究の現状と位置づけ及び歴史
的変遷に関する文献研究

東京大学大学院 医学系研究科 社会予防疫学分野 篠崎 奈々

【研究要旨】

日本における公衆栄養学の教育・研究の現状と課題を明らかにするため、日本、韓国、台湾、中国で公衆栄養学の教育・研究状況を比較した。日本で公衆栄養学を必修とする学科は主に私立大学の家政系学科であったが、公衆栄養学関連の論文は公衆栄養学必修学科を持たない国公立大学・大学院の医学系学科・研究科で多く書かれていた。また、他国・地域に比べて公衆栄養学必修学科を持つ大学は多いが、人口 1 千万人当たりの公衆栄養学関連論文の生産数は少なかった。現在の大学教育は公衆栄養学研究の推進に貢献する上で十分とはいえ、今後の公衆栄養学分野の発展のために公衆栄養学教育及び研究の拡充による高度専門人材の育成とその活用が必要である。

【研究目的】

日本における公衆栄養学教育は経時的・国際的に見て不十分な点が多いことが指摘されている。日本の公衆栄養学教育・研究の課題を明らかにするため、公衆栄養学教育・研究の現状と位置づけを日本、韓国、台湾、中国で比較した。

【研究方法】

日本、韓国、台湾、中国の大学における公衆栄養学を必修とする学科の数とその学問領域を、文献調査と関係機関に対する電話やメールでの照会により調査した。また、PubMed を用いて公衆栄養学の学術誌である“Public Health Nutrition”に 2007～16 年に掲載された論文を抽出し、各国・地域内に所属がある筆頭著者または責任著者により書かれた論文の数とその所属機関を比較した。

【研究結果】

日本、韓国、台湾では公衆栄養学必修学科が国立大学よりも私立大学に多く設置されていた。日本の公衆栄養学必修学科数は韓国、台湾、中国に比べて多く、全て栄養士・管理栄養士養成課程であった。公衆栄養学必修学科の学問領域は、日本では家政学、韓国では自然系列、台湾では保健・福祉、中国では医学がそれぞれ最も多かった。日本国内の機関に在籍する筆頭著者による公衆栄養学関連論文の 81%が大学・大学院で書かれた論文であり、そのうち 73%は国公立大学・大学院で、主に医学系の学科・研究科であった。日本、韓国、台湾では、公衆栄養学必修学科のない大学・大学院で書かれた論文が必修学科のある大学・

大学院で書かれた論文に比べて多かった。各国・地域の人口1千万人あたりの公衆栄養学関連論文数は台湾で最も多く、次に韓国、日本、中国が続いた。

【考察】

日本の公衆栄養学必修学科の多くが家政学に分類された理由は、古くから日本で行われてきた女子教育を起源とする家政学と、明治期に欧米諸国から紹介された栄養学が戦後教育改革の中で統合され、後に栄養学の一分野として公衆栄養学が誕生したためと考えられる。現在、日本の公衆栄養学の教育は主に私立大学の栄養士・管理栄養士養成課程で行われている一方で、研究は公衆栄養学必修学科のない国立大学を中心に行われており、教育施設と研究施設が一致していない。また、他国・地域に比べて公衆栄養学を必修とする学科の数は多いが、単位人口当たりの論文生産数は少なく、現在の大学教育は公衆栄養学研究の推進に貢献する上で十分とはいえない。

【結論】

日本の公衆栄養学教育は主に私立大学の家政学分野で行われ、研究は国立大学・大学院の医学系分野を中心に行われていた。また、公衆栄養学必修学科数は多いが単位人口当たりの公衆栄養学関連論文数は少なかった。公衆栄養学分野の高度専門人材の育成のためには公衆栄養学の教育と研究の拡充が必要である。